特別優秀賞

まえのせきのなっちゃん

鹿児島県　田上小学校　一年
若松　琴音

ずこうのじかんのことです。ねんどで、どうぶつやおかしをつくっていたら、じょうずにねんどをのばすことができません。

「ううん、ううん。どうしよう。」

わたしはうなってしまいました。すると、わたしの目のまえに、ねんどべらがニョキッとかおをだしました。

「わたしの、かりてもいいよ。」と、まえのせきのなっちゃんが、にっこりといいました。

「ありがとう。」

わたしはびっくりしすぎて、ちいさなこえでいいました。だって、「かして」と、わたしはいっていないからです。

どうして、かしてくれたのかなあ。わたしは、とってもふしぎにおもいました。なっちゃんのねんどべらをつかっていたら、こんどは、もっとびっくりすることがおこりました。

「わたしの、かりてもいいよ。」

「え。」だって、さっきわたしがきいたことばと、おなじだったからです。

「ありがとう。」と、ひかりちゃんがなっちゃんにいいました。ひかりちゃんは、ピンクのねんどべらを、なっちゃんからかりていました。

どうしてかな。わたしは、ふしぎにおもいました。だって、わたしやひかりちゃんは、「かして」といっていないからです。わたしもおともだちに、「かして」といわれたら、すぐに、「はい、どうぞ」ということができます。だけど、まえのせきのなっちゃんには、「かして」といっていないのです。

「すごいなあ。なんで、きづいたのかなあ。」

おうちにかえって、おかあさんに、ずこうのじかんにあったことを、おはなししました。

「なっちゃんが、ねんどべらをかしてくれたの。」

「よかったねえ。」

「でも、かしてっていわなかったんだよ。」

「すごいわねえ。」

「だよね。ひかりちゃんもいっていなかったんだよ。」

「もっとすごいねえ。」

「なんで、かしてほしいってわかったのかなあ。」

わたしは、むちゅうでおはなししました。すると、おかあさんが、こくごじてんという本をもってきました。

「しんせつ、というのよ。」

「しんせつ。」と、わたしは右にくびをカクンとまげました。

『おもいやりのあついこと。まごころをもっていること』。

「まごころ。」

こんどは、左にくびをかしげました。さいごに、おかあさんが、

「人のきもちになってかんがえることよ。それが、しんせつ。」と、やさしくおしえてくれました。

「うん、わかる。なっちゃんだ。」

きづいたなっちゃんは、すごいです。